

# 東北地方 1か月予報

( 12月7日から1月6日までの天候見通し )

平成14年12月6日  
仙台管区気象台発表

## <特に注意を要する事項>

1週目は強い寒気の影響を受け、低温となるでしょう。2週目以降も低温傾向が続く見込みです。

## <予想される向こう1か月の天候>

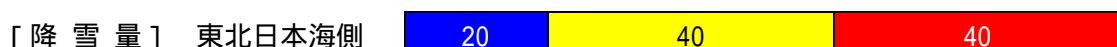
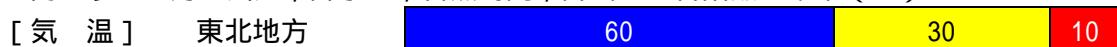
向こう1か月の可能性の大きな天候は以下のとおりです。

冬型の気圧配置が続き、平年と同様に、東北日本海側では曇りや雪または雨の日が多く、東北太平洋側では晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の気温は低く、降水量は平年並、日照時間は平年並、東北日本海側の降雪量は平年並が多い見込みです。

週別の気温は、1週目は低く、2週目、3～4週目は共に平年並か低いでしょう。

## <向こう1か月の気温、降水量、日照時間、降雪量の各階級の確率(%)>



■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

## <気温経過の各階級の確率(%)>



■ 低い ■ 平年並 ■ 高い

## <予報の対象期間>

1か月 : 12月 7日(土)～1月 6日(月)

1週目 : 12月 7日(土)～12月 13日(金)

2週目 : 12月 14日(土)～12月 20日(金)

3～4週目 : 12月 21日(土)～1月 3日(金)

## <次回発表予定等>

1か月予報：毎週金曜日14時30分 次回は12月13日

3か月予報：12月24日(火)14時00分

<参考資料(平年並の範囲等)>

(1) 30年平均値(向こう1か月の平均気温, 降水量, 日照時間, 降雪量と1週目, 2週目, 3~4週目の平均気温)

	気温 ( )	降水量 (mm)	日照時間 (時間)	降雪量 (cm)	気温( )		
					1週目	2週目	3~4週目
大船渡	2.8	36.1	141.2	0	4.2	3.0	2.3
新庄	0.7	207.9	37.0	-----	2.1	0.9	0.1
若松	1.3	85.9	71.8	97	2.6	1.6	0.7
深浦	1.8	120.6	32.7	51	3.1	2.1	1.3
青森	0.6	145.3	54.0	196	2.0	0.9	0.1
むつ	0.6	91.8	73.2	-----	1.9	0.8	0.1
八戸	0.9	41.3	128.2	18	2.4	1.2	0.4
秋田	2.0	151.7	46.0	59	3.4	2.4	1.5
盛岡	0.1	60.0	107.1	48	1.5	0.4	-0.5
宮古	2.4	37.6	152.5	0	3.7	2.6	1.8
酒田	3.7	190.7	41.4	37	5.0	3.9	3.1
山形	1.7	81.3	83.7	76	3.1	2.0	1.1
仙台	3.6	29.1	144.8	18	5.0	3.9	3.1
石巻	2.6	27.0	156.0	0	4.1	2.9	2.1
福島	3.5	35.3	129.9	26	4.8	3.9	2.9
白河	2.1	26.5	155.4	-----	3.4	2.5	1.6
小名浜	5.5	36.9	184.5	0	6.7	5.8	5.0

なお、気温、降水量、日照時間、降雪量の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いはあります。下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

(2) 1971~2000年のデータに基づいた向こう1か月地域平均の気温、降水量、日照時間、降雪量の平年差(比)の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差( )	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)	降雪量平年比(%)
東北地方	-0.3~+0.6	77~104	96~104	61~109
東北日本海側	-0.4~+0.6	90~107	89~106	73~107
東北太平洋側	-0.2~+0.6	64~107	98~104	49~111

(3) この予報期間の1週目、2週目、3~4週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1週目	2週目	3~4週目
東北地方	-0.6~+0.6	-0.6~+0.6	-0.2~+0.7
東北日本海側	-0.6~+0.7	-0.6~+0.6	-0.3~+0.7
東北太平洋側	-0.6~+0.6	-0.6~+0.7	-0.2~+0.7

<参考資料(利用上の注意)>

(1) 気温・降水量等は、「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1971~2000年の30年間における各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるように決めてあります(気候的出現率と呼びます)。

(2) 確率は、予報した階級が実際に起こる割合(出現率)を表しています。たとえば、確率60%の予報10例では、そのうちの6回で予報した階級が実際に起こり、4回で起こらないことが想定されます。また、統計的に有意性の高い予測資料が得られた場合には気候的出現率(各階級ともに33%)から大きく隔たった確率(10%や60%、70%など)を付けられますが、有意性が低い場合には気候的出現率と同じかそれと同程度(30%、40%)の確率しか付けられません。

(3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。なお、単に多い(少ない)と表現した場合には対象期間の2分の1より多い(少ない)ことを意味します。

# 東北地方 1か月予報解説資料

平成14年12月6日 仙台管区気象台

## 1. 可能性の大きな天候の特徴

向こう1か月(12月7日～1月6日)：

冬型の気圧配置が続き、平年と同様に、東北日本海側は曇りや雪または雨の日が多く、東北太平洋側は晴れの日が多いでしょう。

平均気温は低いでしょう。

1週目(12月7日～12月13日)：

冬型の気圧配置が続き、東北日本海側と東北太平洋側の内陸、山沿いでは雪の降る日が多く、東北太平洋側の沿岸部では概ね晴れる見込みです。

なお、期間の初めは気圧の谷の影響で東北太平洋側でも雨や雪の降る所があるでしょう。

平均気温は低いでしょう。

2週目(12月14日～12月20日)：

気圧の谷が周期的に通過し、通過後は冬型の気圧配置となるでしょう。平年と同様に、東北日本海側は曇りや雪または雨の日が多く、東北太平洋側は晴れの日が多いでしょう。

平均気温は平年並か低いでしょう。

3～4週目(12月21日～1月3日)：

冬型の気圧配置が続き、平年と同様に、東北日本海側は曇りや雪の日が多く、東北太平洋側は晴れの日が多いでしょう。

平均気温は平年並か低いでしょう。

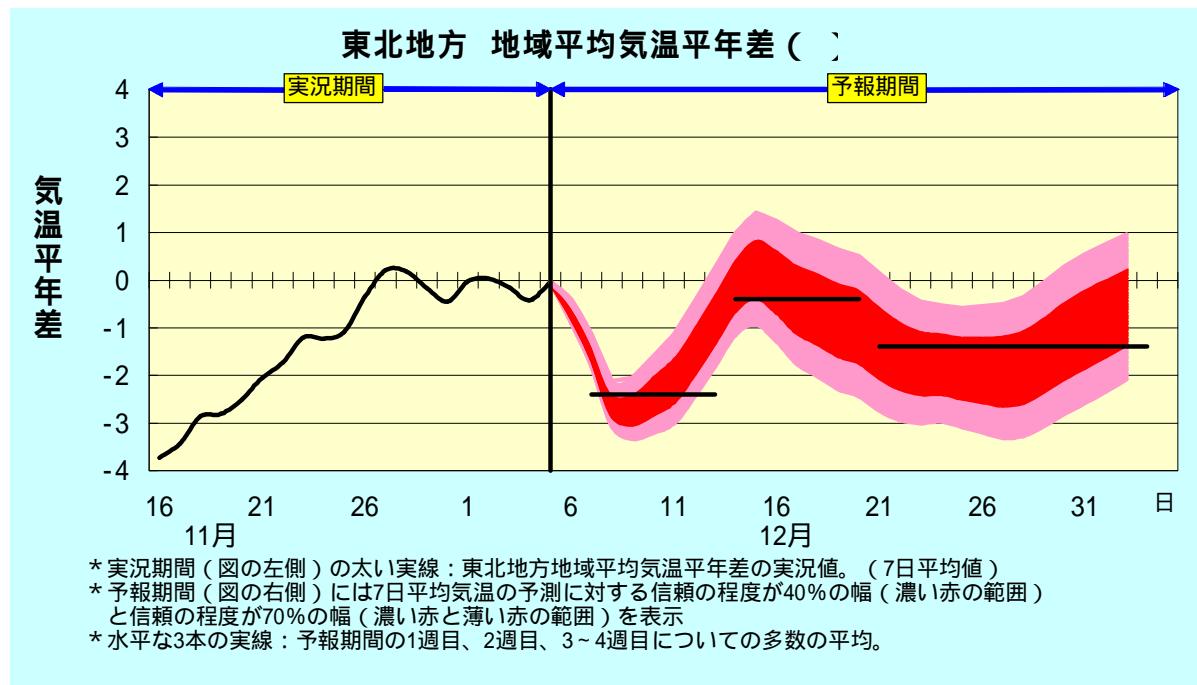
平年の晴れ日数

	向こう28日間	1週目	2週目	3～4週目
東北日本海側	4.7日	1.1日	1.1日	2.5日
東北太平洋側	16.9日	4.0日	4.3日	8.6日

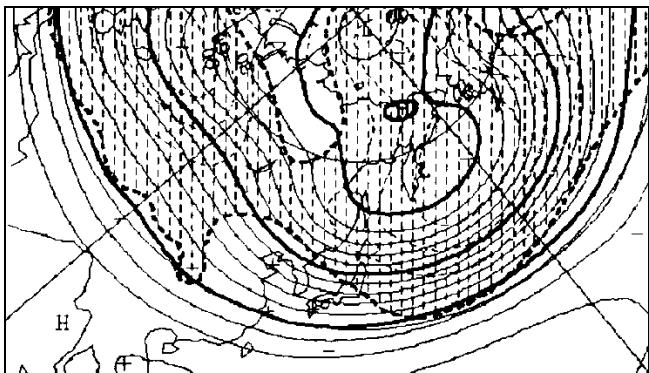
## 2. 東北地方の地域平均気温平年差の実況と数値予報による予測

数値予報による週別の気温は、1週目「低い」、2週目「平年並」、3～4週目「低い」を予測している。予報は、1週目数値予報どおりとし、2週目、3～4週目を「平年並か低い」とする。

なお、数値予報の信頼度は大きい。



### 3. 循環場の特徴（アンサンブル平均天気図）

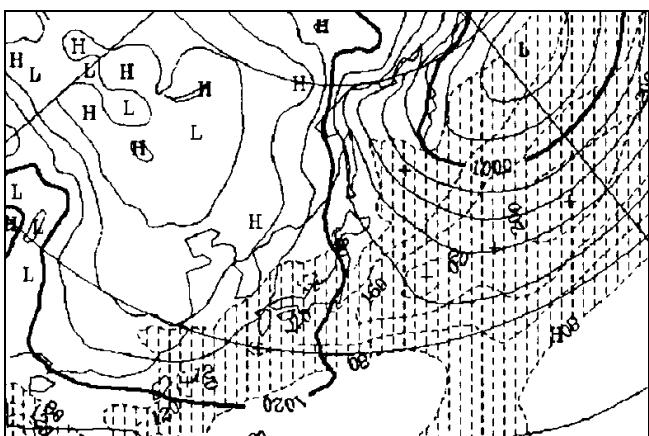


月平均の 500hPa 高度・偏差  
等高度線 : 60m 每、偏差 : 30m 每、陰影部 : 負偏差

#### 500hPa 高度・偏差

月平均で見ると、極渦は極付近とカムチャツカ半島付近にあって北日本は負偏差に覆われるが、東日本から大陸にかけては正偏差が広がる。このため、北日本は寒気の影響を受けやすい。

週別（図略）では、1週目に日本付近広く負偏差に覆われ、強い寒気の影響を受ける。2週目は北海道以北が負偏差となり、3～4週目は再び北日本が負偏差となる。2週目以降も引き続き寒気の影響を受けやすい。



月平均の地上気圧と降水量  
等圧線 : 4hPa 每、降水量 : 40mm 每、陰影部 : 80mm 以上

#### 地上気圧と降水量

月平均で見ると、アリューシャン列島付近には低気圧があり、大陸には高気圧がある冬型の気圧配置となっている。

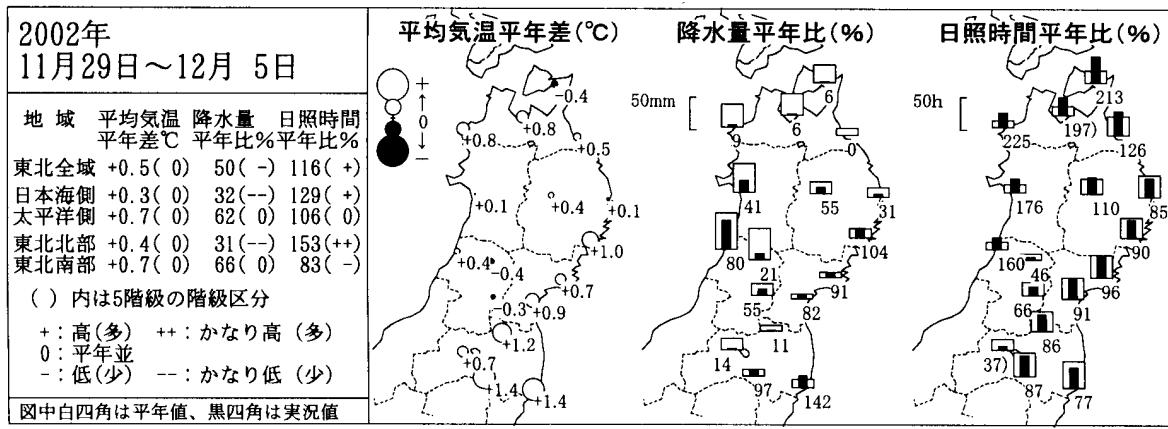
降水域は日本海から太平洋にかけて広がるが、日本の南が低圧部となっているため、南岸にまとまった降水域がのびる。

週別（図略）では、各週共基本的には冬型の気圧配置が続く。しかし、1週目は日本の南の低圧部が顕著となり、南岸を進む低気圧の影響を受ける時期がある。また、2週目は大陸の高気圧が日本付近に広く張り出し、冬型の気圧配置が若干緩む。

### 4. 最近1週間（11月29日～12月5日）の天候の経過

この期間、気圧の谷と高気圧が交互に通り、天気は概ね周期的に変化した。

平均気温は、東北地方で平年差+0.5℃と平年並だった。降水量は、東北北部で平年比31%とかなり少なく、東北南部で平年比66%と平年並だった。日照時間は、東北北部で平年比153%とかなり多く、東北南部で平年比83%と少なかった。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差（比）